

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	就労等を通じた、シニア世代のセカンドライフ充実について	鎌倉市
アイデア名 (注1) (公開)	宿坊を通してシニア世代の高齢者の雇用拡大 ～KAMAKURA を世界基準の観光都市へ～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	minamoto		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="checkbox"/> 1.市民によるチーム <input checked="" type="checkbox"/> 2.学生によるチーム <input checked="" type="checkbox"/> 3.市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	6名		
代表者情報	氏名 (公開)	屋ヶ田友紀	
メンバー情報	氏名 (公開)	坂井大介、東郷静、高橋萌 興石茉莉、矢作修	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。
<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの論拠、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

宿坊を通してシニア世代の高齢者の雇用拡大～KAMAKURA を世界基準の観光都市へ～
観光客数の世界基準をご存知でしょうか。

国連世界観光機関（UNWTO）では観光地に 24 時間以上の滞在している事とされています。昨年度の鎌倉市の観光客数は延べ 2,293 万人です。その多くが日帰り観光客であり宿泊観光客数はその内 34.4 万人(1.54%)と非常に少ないです。宿泊するかしないかでは鎌倉市での消費額にも大きな差があると考えます。平均で一人当たり観光消費額は【日帰り客】6,702 円/人【宿泊客】20,229 円/人と、その差は 13,527 円です。

この事実を背景に、鎌倉市を宿坊を通して世界基準の観光都市にすることで更なる観光業の発展につながると考えています。また、宿坊と行うことで生まれる新たな雇用の機会が発生し、鎌倉市に住むシニア世代を多く雇用することで市民であるからこそ話すことのできる鎌倉市の話や、観光名所の紹介といった観光客への新たな魅力の発信も可能ではないかと考えます。

①宿坊の理由

鎌倉市には寺社が合わせて 172 ヶ所あり、その中で寺院は 121 ヶ所ありますが、その多くで宿坊を行っていません。その理由として寺院にも様々な問題もあると思われませんが、それ以上にスタッフの不足や道具の不足、食事の調達等の課題もあると考えられます。しかしこの点をクリアにすれば宿坊は十分可能であると思います。そのためには鎌倉市と、NPO 法人 minamo と、寺院と、シニア世代の高齢者と、飲食店などの地域住民が協力し、歴史的な鎌倉の資源である寺院を活かした宿坊を開発し、鎌倉市のまちづくりに役立てたいと思います。寺院を中心にして地域のコミュニティの充実並びに長寿社会のための新しいまちづくりプロジェクトを作り上げます。

②なぜシニア世代を雇用するのか？

全国平均では高齢者の 7 割近くが 65 歳を超えても働きたいと願っています。

鎌倉市内でも非就労者で働きたいと考える高齢者は全体のシニア世代の高齢者を積極的雇用にすることで、高齢者のセカンドライフにつながるとともに、鎌倉市としても新規雇用者数の増加につながります。また、国が「働き方改革」でも推奨している、年齢に関わりなく公正な職務能力評価により働き続けられる社会（エイジレス社会）の実現にもなると思います。

③展望

今後、宿坊を通しての観光産業の発展、シニア世代の高齢者の雇用の増加によって、少子高齢化の進む我が国のモデルケースとなるだけでなく、鎌倉市が世界基準の観光都市に成長していくと考えられます。

【出典：

第 3 期鎌倉市観光基礎計画

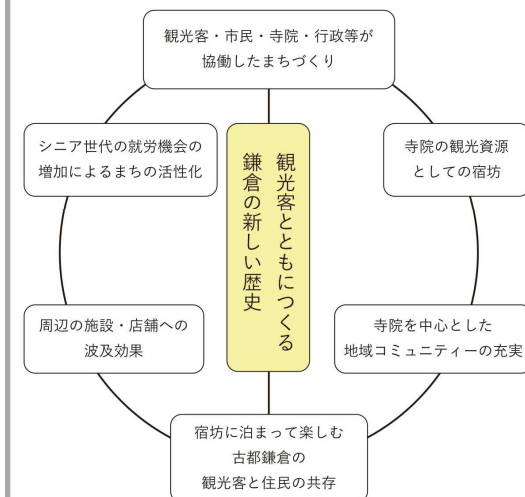
https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/documents/dai3ki_kankoukihonkeikaku.pdf

鎌倉市の観光事情—平成 28 年度版—

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/kankoujijo_uh28.html】

アイデアの内容の図

公共サービスの趣旨



(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

鎌倉市の現状

①人口問題

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、鎌倉市人口の年齢層別の割合について、14歳以下の年少人口や15～64歳の生産年齢人口が占める割合がそれぞれ減少傾向にある一方で、65歳以上の老年人口の割合は高まっていくとされており、少子高齢社会がより一層進行することが予測されます。我が国全体として直面している少子高齢社会の到来は、鎌倉市においても一定の水準で現れると予想されるため、今後、長期的な地域活力の低下や税収の減少に備えた市政運営が求められます。

【出典：第3期鎌倉市観光基礎計画

https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/documents/dai3ki_kankoukihonkeikaku.pdf】

②現在のシニア世代の就労率

現在は「就労していない」が37.2%で高く、就労割合は全体で55.0%です。

③今後の就労希望

鎌倉市のシニア世代の就労についてのアンケート調査から全体で「就労したい」が37.7%、「できれば就労したい」が21.7%で合計59.4%が就労希望です。就労し続ける希望を持っていることから、就労の需要は大きいと考えます。また、就労する場合に希望する場所は、「鎌倉市内」が62.1%で最も高くなっている現状から、鎌倉市内の寺院の宿坊での就労も十分可能だと思います。

④現状の就労について

現在「豊富な経験や知識があるから」（37.2%）や、「人材不足」（22.7%）等の理由からシニア世代の就労ニーズは旺盛であるものの、企業側からみたシニア世代の就労については潜在的なニーズにとどまっています。また鎌倉市内では中小規模事業者が多いため、シニア世代が求める「就労場所が通いやすいこと」や「鎌倉市内」等のニーズを満たすだけの求人が鎌倉市少ないのが現状です。その為、シニア世代の求人ニーズが十分とは言えません。

【出典：鎌倉市のシニア世代の就労についてのアンケート調査

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/seisaku-souzou/documents/houkokusho.pdf>】

⑤観光客について

現在鎌倉市では観光客数は平成 27 年度で 2,293 万人ですが、その多くは日帰り観光客であり、宿泊観光客数はその内 34.4 万人（1.54%）である。現在の一人当たり観光消費額は【日帰り客】6,702 円／人【宿泊客】20,229 円／人です。

⑥今後の観光業に求められること。

国の将来人口推計によると、国内人口は平成 42 年には平成 27 年対比で約 8% 減少し、平成 52 年には約 15% 減少すると予測されています。これにしたがって、国内の観光消費額も同様のペースで減少すると見られ、平成 42 年に約 11%、平成 52 年には約 19% の減少が予想されている。今後観光消費額の維持・増加そのためには観光客数にこだわらずに、これまで以上に観光の「質」の向上に向けて、幅広く施策を展開していく必要があると考えられます。

⑦シニア世代の雇用創出

宿坊の開設により寺院等の宿泊スタッフの雇用だけではなく、周辺の飲食店や入浴施設等の雇用も増えると考えられます。

労働力人口が減少している中で我が国の成長力を確保していくためにも、意欲ある高齢者が働くための多様な就業機会を提供していく必要があり、「宿坊に泊まる」というアイデアを実現することで、新しい鎌倉市の発展が展望できます。

【出典：鎌倉市のシニア世代の就労についてのアンケート調査】

鎌倉の地域課題解決につながるシニア雇用促進事業（事業構想要約版）

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/koureisya/documents/jigyokousouyouvakuban.pdf>】

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

① 資源調達（カネ）

≪1人あたりの消費額の算出方法≫※（引用：鎌倉市の観光事情—平成28年度版—）

宿泊客：宿泊費平均額（①×実宿泊者数）（13,527円）＋飲食費平均額（3,135円）＋土産代平均額（2,387円）＋市内交通費平均額（1,052円）＋観光施設入場料平均額（②×実観光客数）（128円）
日帰り客：飲食費平均額（3,135円）＋土産代平均額（2,387円）＋市内交通費平均額（1,052円）＋観光施設入場料平均額（128円）

① 宿泊費 各宿泊施設の平均単価に、各宿泊施設の実宿泊客数を乗じたものの総額。

② 観光施設入場料 有料施設（寺社含む）の入場料の総額。

・クラウドファンディングを用いての資金調達

本アイデアは宿泊施設には既存の寺院を使うけれど、その他設備投資にはクラウドファンディングで初期投資分を賄うこととする。またその見返りとして投資者には優先的に宿坊にとまれるようにする。またクラウドファンディング行うことの副産物として以下のことが期待できる。

・アイデアの情報発信・PR

クラウドファンディングはインターネットを活用する仕組みであるため、資金調達だけでなく、アイデア自体を広く社会に対してアピールでき、地域の人々をアイデアに巻き込みやすいといったメリットがある。また、社会貢献度の高い事業にはニュース性があることから、パブリシティを上手く展開すれば、かなりの広報効果が期待できる。このことよりアイデアの実施前から顧客づくり、ファンづくりを図ることが可能である。

・財政負担の軽減

これまで公共性の高い、または地域活性化や生活環境の改善に資する事業の場合、その活動費の一部を助成する形が一般的ですが、クラウドファンディングを活用することで、財政負担の軽減につながります。

【出典：クラウドファンディングを活用したまちづくり入門 <http://www.tokeikyoku.or.jp/research/doc/nyuumon-crowdfunding.pdf>】

② 資源調達（ヒト）

・行政窓口を活かした窓口の設置

行政による相談窓口の設置。シルバー人材センター内に相談窓口を設置、シニア世代と事業者双方の相談業務実施。就労に限定せず広くセカンドライフのライフプランの相談に応じることで間口を広げ、より多くの相談者獲得から就労者の増加を図る。窓口では、雇用を希望するシニア世代の人材バンクの整備を行う。

寺院と人材のマッチングの取組、宿坊の概略や問い合わせ先等を記載したチラシを作成、周知に活用する。

・人材育成

アイデアでは歴史・文化都市である鎌倉に関する知識、接遇などが必要になる。その為、今後、市と共催の実施課題としてスキルアップセミナー等の開催など、システム化した人材育成の活用。

【出典：鎌倉の地域課題解決につながるシニア雇用促進事業（事業構想概念図）
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/koureisya/documents/jigyokousougainenzu.pdf>】

〈スケジュールと経費の概略〉

年度	実施内容
2018年	<p>◎シニア世代の高齢者及び寺院へのアンケート実施 / クラウドファンディングの実施</p> <p>相談窓口の開設 / 寺院の宿坊開設の聞き取り調査</p> <p>ホームページ開設</p> <p>就労啓発セミナー開設</p> <p>寺院訪問</p>
2019年	<p>就職説明会開催</p> <p>スキルアップセミナー開催</p> <p>NPO 法人 minamo の人員強化</p> <p>常時実施</p>
2020年	<p>宿坊の予約受付開始</p>